

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500782		
法人名	社会福祉法人 寿泉会		
事業所名	八幡園グループホーム		
所在地	三重県津市津興2947		
自己評価作成日	平成22年9月1日	評価結果市町村提出日	平成22年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470500782&SCD=320□□
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の食事の希望を随時取り入れ満足出来るよう力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ヤナセメディケアグループ介護事業の一部として、同一建屋の通所介護と共に設立されたグループホームであり、グループとして職員の新人研修やスキルUP研修等も定期的を実施され、利用者の立場での支援が意識づけされている。グループホームとしての事業も9年目を迎え、職員と利用者との関係も長く、お互いが共に生きる喜びを味わいながらの信頼関係が出来ている様子がうかがえる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	八幡園グループホームは独自の理念を持ち介護サービスを提供している。	利用者の体調に合わせた対応を理念の「あせらず、くじけず」を基本に支援しながら、この地域での暮らしを意識して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	八幡町自治会の会員として会報の配布を受けたり自治会の行事への参加やボランティアの協力を受けている。	日常的には地域の方が来所して野菜を届けて頂いたり、散歩の時等で気軽に話合っている。地域への貢献として、老人会でのリハビリ体操の指導等を行い、信頼関係を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の有効利用の促しや声掛けなど機会ある毎に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場では出席者と意見交換を行いサービスは生かすようにしている。また介護についての悩みや困りごとへの相談を受けたりもしている。	2ヶ月毎に自治会、民生委員、介護福祉課、利用者の家族等の幅広い参加の基に開催されている。事業所でのイベントとして「みかん狩り」の提案を受けて実施に結び付けたりして、事業所の応援団として活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議だけでなく実際に相談出来る関係を築いており情報交換も行っている。	市の職員が来所する事は無いが、介護関係の用事で訪問時には種々の相談をして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない介護のため、研修会で学んだり、常に啓発のために掲示物で意識するように促している。	「身体拘束ゼロ宣言」を所内に掲示して、職員や家族、来訪者に意識付けしている。二階グループホームからの下降時は暗証番号による開錠となっているが、家族には契約時にその旨を説明して了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学ぶ機会を作ったり、職員同士で話し合いの機会を持ち、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が制度を利用しているため職員の身近に理解する機会があるため活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分に時間をかけて丁寧に説明を行い理解して頂ける様に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい雰囲気作りで意見や要望を出し易い環境にしているのと積極的に意見を伺うようにして運営に生かせるようにしている。	家族会はないが、月一回の定期的な状況報告を案内している。家族は月1~2回来所される方が多いので、その時には話し易い雰囲気づくりを心がけながら、意見や要望を聴いて支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や申し送り会で意見を言ったり、聴いたり出来る機会を積極的に作っている。日頃からの意見交換を頻繁に行っている。	毎月第二水曜日を定例会議の日として業務改善や利用者の状況変化の対応等について、通所介護の看護師の意見も取り入れながら話合っている。今回の自己評価は、職員から日常支援の意見を聞きながら管理者が記載している。	自己評価は、日常の支援の振り返りの機会として、又職員のレベル合わせや気づきの機会としても重要であり、出来る限り多くの職員の参加で取り組める仕組みを考えて欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の性格や特性を見極め、力を出せるような機会や業務への取り組みが出来るように配慮してる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を活かし参加できるよう業務調整を行ったり、資格試験への援助を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会への参加やグループホーム交流会などでお互いの活動の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と充分話し合いを行うだけでなくケアマネジャーや主治医・関係者から聞き取りを行い理解の上で良い関係が築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	充分な時間をかけ、複数回の話し合いを行うことで良い関係になれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者に適切なサービスを導入出来る様見極めを職員全員で行うようにしており、状態変化にすぐ対応出来る様に連絡をしっかりと行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の配膳や準備・後片付けまた洗濯や掃除など出来る範囲で手助けして頂く事で共に暮らす者同士としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との意志疎通をはかり、お互いの意見をもとに協力してもらう事で援助が成り立つような関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの方々が頻繁に出入り出来る様に来易い雰囲気作りや声掛けを行っている。	利用者の知人や民生委員の方が時々来所され楽しいひと時を過ごせる雰囲気づくりに心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の席の並びに配慮したり、良い関係になるような働きかけを行い、関わり合い、支え合いができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も機会ある時は相談に応じて関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に思いの把握に努め、意向に添えるように職員同士が情報を集め、連絡し合うことで努めている。	職員の退職が殆ど無く、利用者の意向や希望がくみ取り易い状況である。センター方式の一部を取り入れ、利用者の姿に現在の状況や思いを記入して変化に応じた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなく、家族や関係者からの情報収集により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・ケース記録や夜勤日誌などから、また職員間からの情報の交換によって現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員と家族が協力して意見を出し、現状の本人に合った介護計画になるようモニタリングを毎月行って検討している。変化のない場合でも3ヶ月毎に介護計画の作成を行っている。	基本的には3ヶ月毎に見直しがされ、介護計画書に基づく支援内容の実施と毎月のモニタリングによる評価が定期的に確実に実行されており、P、D、C、Aがまわっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人のケース記録・業務日誌・夜勤日誌を詳細に記録し、情報を共有する事で支援に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望を第一に買い物や食事・趣味など自由にかつ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や老人会などへの参加や街中の利便性を活かした買い物支援や外食など豊かに自由に楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大事にしてかかりつけの医者との関係を築いている。	利用者の意向により、従来からの「かかりつけ医」を利用されている方もあり、その他の方は事業所のグループの協力医を利用している。尚 年一回の定期健診も同様である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平素の健康管理は元より異常や不調の時など迅速に手立てが出来るように常に支援が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係機関との情報交換により利用者が安全な生活が出来るように関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階から家族の意向を汲んでおくようによく話し合いに努め、情報の共有が出来る様にしている。	医療行為が伴わなければ終末期に向けた支援については、利用者・家族・職員の三者の連携で支援する事の方針が確認されている。尚、過去に於いても二度の終末期対応の経験が有り、職員との意思統一が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会での学習の機会や実際の事故報告書などから実践的に学べるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練(火災・夜勤時)で災害対策に備えると共に地域との協力体制を築きつつある。	定期的な避難訓練として夜間を想定した職員が一人の時の対応についても実施されており、運営推進会議に於いて、地域との協力体制についても協議している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けする場所に配慮した細やかな声掛けを実践している。	職員には「個人情報管理マニュアル」や排泄、入浴、言葉かけ等の対応について、研修や日頃の実践の中で指導しており、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者に意向を確認する機会を持つようにして意志決定の機会を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別のケアプランに基づき、自分のペースで過ごせるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や化粧品の好みを聞き、希望に添うように支援している。また、調髪は美容師に来てもらい希望通りの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りでは利用者の希望を最大限活かすようにしており、調理、片付け等も無理なく出来るよう支援している。	毎週火曜日と金曜日の夕食については利用者と共買い物に行き、出来る限り要望を取り入れ作っている。食事は職員と共に同じテーブルでメニュー内容の話題等で話しをしながら楽しみのひと時としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じ摂取チェック表で個別に量の把握に努めたり、職員が常に摂取量の把握が出来る様に申し送りや連絡を頻繁に行っている。また何処でも水分補給可能な環境にしてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別の状態に応じて声掛け・介助を行い、歯磨きや入歯洗浄剤等の使用で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツの使用をせず、状態に応じた最適な排泄ケアで不快感のない生活ができるように支援している。	夜間の「おむつ」は一名のみで、その他の方はリハビリパンツでの対応となっている。居室にはそれぞれ「トイレ」が設置されており、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分と食物繊維のある食事、運動などで便秘予防を心がけている。排便チェック表で排便の状況を把握して時にはマッサージなども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望で入浴し易いように週に5回の入浴を実施している。気分良く入れるように入浴剤に工夫したり声掛けをタイミングよくして楽しい入浴サービスをこころがけている。	基本的には週5日の入浴となっており、利用者毎には週2～3回程度の入浴支援を行っている。入浴時は利用者の「グチ」を聞いたり、思い出話の聞く機会として又、一対一の少ない機会として重要な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで気楽に休めるように複数を設置している。また、居室で休息がいつでもできるように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬出来るように飲み終わるまで職員が見届けるようにしており、状態の変化によって看護との連携が取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みに応じて趣味や嗜好品の把握をして支援するようにしている。花作りや新聞受けや食事作りなど役割に喜びを感じられるような働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など日常的にまた外食や喫茶店などへも出かけ、地域の方の中へ入って行けるような支援を行っている。また、外泊や墓参りなどへも行けるよう家族の協力を得ている。	年間行事計画表に基づき定期的に家族と共に楽しむ行事も含め外出の支援をしている。日常的には近くの集会所へ行ったりして、地域の方とのふれあいを大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理の出来る方には個人で財布を持って好きなものが買えるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に家族や知人との連絡が出来るようにしており、年賀状や暑中見舞いなどの手紙も欠かさず送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に季節感が感じられるように草花を飾り、行事の様子を振り返り、楽しめるよう写真を掲示している。明るく清潔感を感じられるように常に配慮している。	両側の居室を挟んだ中央の廊下は通常の倍ほどの広さがあり、高い天井と共に全体が明るい雰囲気となっている。食堂兼居間は広く設計され「ゆったり」とした感じで、全体が「スッキリ」している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室では寝転べるようにしており、ソファでひとりでも寛げるようにいくつも置くようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の馴染みの物を置いて寛げるように規制を設けることなく受け入れている。	各居室には「トイレ」「洗面台」が設置され自立した生活が出来る設計となっており、タンスや物入れを利用者一人ひとりが工夫して、好みに応じて利用している様子がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に目印やシール・名前の掲示をして判り易くしており、安心して生活できるようにしている。		